

(様式1)

自 己 評 価 表

川之江高等学校 (全日制)

学校番号 (1)

教育方針	(1) 豊かな知性と創造性、果敢な積極性を育てる。 (2) 自他を敬愛する人権尊重の精神と誠実な人間性を育てる。 (3) 豊かな情操と感性、たくましい体力を育てる。 (4) 国際的な視野に立ち、変化に対応できる柔軟性を育てる。 (5) 地域社会に貢献する意欲と実践力を育てる。	重点目標	豊かな人間性を持ち、積極果敢な精神と自己開拓力に満ちた生徒の育成 - 高き理想の実現に向けた確かな知力、応用力、実践力の育成 -
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	家庭学習習慣の確立	週当たり1年20時間・2年25時間・3年30時間 各目標時間の A: 100%以上 B: 90%~ C: 80%~ D: 70%~ E: 70%未満	D	週当たり学習時間の目標に対する割合 第1学年 18.3/20時間 91.5% 第2学年 18.0/25時間 72.0% 第3学年 21.6/30時間 72.0% 全学年 57.9/75時間 77.2% 1年生はほぼ目標に近い数値だが、2年生で学習時間が伸びていない。	2学年以降、類型によっては学習時間が著しく減少するので、類型に応じた課題の設定、進路指導等きめ細かく指導していく体制を整える。
	分かる授業、主体的に学ぶ意欲を育てる授業の実践	授業公開、研究授業、相互授業参観等を通じた授業改善への取組 A: 100% B: 90%~ C: 80%~ D: 70%~ E: 70%未満	B	95%の教員が、授業改善に取り組んだと回答 今年度、学校訪問研修の指定を受け、「本気の学びの追究」をテーマに各教科で授業改善に取り組んだ。公開授業日は縮小しての実施であったが、新たに中学校への出前授業を実施した。	今年度行った授業改善の内容を校内で共有する。また、生徒の学びに向かう意欲を喚起するため、総合的な探究の時間を系統的、計画的に実施できるように、他校の取組も参考にする。
	AI時代に対応した学力の育成	読解力を伸ばすための授業内容の工夫、授業展開におけるICTの導入 A: 100% B: 90%~ C: 80%~ D: 70%~ E: 70%未満	B	93%の教員が、読解力の育成やICTの導入に取り組んだと回答 今年度、授業や家庭学習に活用できるよう、教職員のPCと生徒のスマートフォン等に学習支援アプリを導入。Web会議システムを活用した取組や、読書をすすめる活動も実施された。	次年度からは生徒全員に端末が配布されるので、ICT機器の活用をさらに推進したい。また、AI時代に対応した読解力の育成の工夫を引き続き行う。
進路指導	確かな学力の修得と進路実現	進学率100%、国公立大学合格者50名以上 A: 50名以上 B: 40名~ C: 30名~ D: 20名~ E: 20名未満	D	3月11日現在、国公立大学合格者22名(既卒者1名含む)。 臨時休校や各種大会の中止など3年生には困難な条件が多かったが、最後まで頑張った生徒が志望校合格を果たした。	高校入学時から国公立大学への進学希望者が減っていることが課題である。入学時から、学ぶ意欲を高め、高い目標を持たせて進学に向かわせる進路指導を行い、国公立大学進学希望者数を増やすことが必要である。
		就職率100% A: 100% B: 90%~ C: 80%~ D: 70%~ E: 70%未満	A	就職希望者36名中36名内定。 コロナ禍においても、四国中央市の雇用情勢は大きく崩れることなく、希望者全員が内定をもらうことができた。	次年度も生徒の就業意欲の醸成に努め、就職率100%を維持したい。

人権教育・生徒指導	<u>自他を尊重し、互いの人権を認め合う態度の育成</u>	<p>人権意識を高め、いじめを起こさないための取組：年間8回以上</p> <p>A：10回 B：9回 C：8回 D：7回 E：6回以下</p>	A	今年度、心の教育推進に取り組んだ。人権に関する講話や講演、アンケート、集会やホームルーム活動での呼びかけ等を10回以上行った。小さな問題も見逃さないことで未然に防ぐことができています。	相手を思いやる心と感謝の気持ちを養い、人権意識の高揚に努める。いじめ認知を積極的に行い、生徒の小さな変化も見逃すことなく、安心安全な学校づくりを行う。
		<p>異校種間・異世代間交流学習：年間6回以上</p> <p>A：8回以上 B：7回 C：6回 D：4～5回 E：3回以下</p>	A	1学年「家庭基礎」6回 3学年「子どもの発達と保育」1回 市内中学校での学習発表 2回	新型コロナウイルス感染症の影響で実施が制限されたが、新規に市内中学校での体験発表会を実施することができた。次年度以降も積極的に異校種・異世代間の交流学習を計画していきたい。
	<u>公共性とコミュニケーション能力の育成</u>	<p>交通事故発生件数：年間0件</p> <p>A：0件 B：1件 C：2件 D：3件 E：4件以上</p>	D	3件 5分前登校が定着し、朝の落ち着きは見られる。左側車道通行の実施率は、ほぼ100%である。	交通事故防止に向けた取組を継続して行う。ヘルメットの着用、登下校時のマナー向上に取り組み、交通安全に対する意識を高め、命を守る態度を育てる。
		<p>出前授業、出前講座（高大連携）：年間6回以上</p> <p>遠隔授業：年間6回以上</p> <p>A：8回以上 B：7回 C：6回 D：4～5回 E：3回以下</p>	A	出前授業、出前講座 8回以上 遠隔授業 8回以上 コロナ禍により、外部講師等を招くことが困難な状況があり、遠隔授業など実施形態を工夫しながら講座を実施した。休校期間にも、動画を配信する形態での遠隔授業を、試行錯誤を重ねながら実施できた。	今年度、遠隔授業を行うためのハード面が整ってきたので、研修を重ねて教職員のスキルアップをしていきたい。
特別活動	<u>個性と能力を生かした心身の鍛錬</u>	<p>部活動加入率75%以上</p> <p>A：100% B：85%～ C：75%～ D：65%～ E：65%未満</p>	C	部活動加入率 77.9% 昨年度の82.4%から4.5ポイントのダウンとなった。新型コロナウイルス感染症による年度当初の臨時休業や総体等の中止の影響で、3年生で部登録をしなかった生徒が多かったことが原因と考えられる。	年度当初の部登録時に部活動の魅力、継続することの大切さを訴える工夫をした。
	<u>地域に生き、地域を愛し、地域とともに歩む心の育成</u>	<p>ボランティア活動・地域行事への参加：年間1人2件以上</p> <p>A：3件以上 B：2.5件～ C：2件～ D：1件～ E：1件未満</p>	E	0.8件（参加生徒延べ人数464名） 新型コロナウイルス感染症の影響でボランティア活動・地域行事が制限されたため、全体では低い数値となったが、県の「高校生まちおこしプロジェクト」の指定を受けて地域と連携した事業を行った。	現地参加型の活動以外に、コロナ禍においても実施可能なボランティア活動を工夫したい。また、まちおこしについては、今年度活動した成果を次年度も継承したい。

業務改善	働き方改革の推進と職場環境の整備	業務の効率化による勤務時間外労働の削減	D	2学期以降、学校行事や部活動等への対応により勤務時間外在校時間が大幅に増加した。部活動の休養日は確保できつつある。	教職員の業務の見直し及びライフワークバランスを意識した職場環境となるよう職員研修を実施したい。
		メンタルヘルスケアの向上と教職員の疲労・負担の軽減	C	教職員のロッカーや休養室を整備した。仕事の量的負担や、分担の不公平感を感じている教職員が多いことが課題である。	業務の効率化を推進するとともに、校務分掌等の仕事内容と人員配置を検討する。管理職による職員の面談を適切に行う。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。